

# 事業報告

## 第2期NEC森の人づくり講座／06年初夏篇

開催日：2006年6月16日～19日

1995年より長きに渡ってNECにご支援いただき、2006年度も“NEC森の人づくり講座”を行うことが出来ました。

昨年度から“第2期NEC森の人づくり講座”として新しいスタートを迎えたこの講座が、やっと本来の形である前期生／後期生合同の活動となりました。

- ・ 真正面から「森林問題」への具体的解決を試みる。＝何はともあれ実践してみる。
- ・ 前期は受講生として参加、後期は前期修了生＝後期生として次期受講生へ「伝える」ことで「人の環づくり」をおこなう。
- ・ 地球環境問題の課題としての森林問題を、前期後期で季節の違うアプローチとして体験する。

このねらいを十分に感じ実践していける人材、「第2期NEC森の人づくり講座」修了生をはじめて輩出する今回の講座。オークヴィレッジ／森林たくみ塾とキープ・フォレスターズスクールの2コースに分かれてどのように開催されたか、それぞれの4日間を、以下に報告いたします。

# プログラム紹介

キープ・フォレスターズスクール コース

場所

山梨県北杜市高根町

●研修のねらい

自分なりの言葉で「環境教育」について人に話せるようになる  
自分の中の「小さな一歩」を踏み出すきっかけをつかむ  
全国の仲間とのネットワークを作ること  
あなた自身のねらいを達成すること

●そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと（まずは、体験することから）  
お互いから学ぶこと（相互啓発、相互学習、みんなが先生）  
楽しみながら学ぶこと（あそび心で！）  
失敗から学ぶこと（失敗をおそれないで）

---

第1部 「森と人と出会う」

---

●第1日目 6月16日（金）

14:00 受付開始

14:30 開講式／オリエンテーション

15:00 講座のウォーミングアップ  
仲間集め／ひらがなシャッフル

15:45 環境教育プログラムの体験  
人間間違い探し／森の宝物探し／森の美術館

16:55 休憩

17:10 **12期生** 講義1：環境教育概論

環境教育と聞いて思い浮かぶ活動は？／環境教育の扱う領域／環境教育とは？  
環境問題はなぜおこる？

**11期生** 実習1：翌日の環境教育プログラムにむけての準備

05年冬に実施したグループでプログラム実施の下見、準備

18:00 夕食

19:20 目的の共有化・自己紹介  
3ワード自己紹介／スライドプログラム「キープ協会とは」

20:30 ログブック記入

20:45 終了

●第2日目 6月17日（土）

07:00 **12期生** 環境教育プログラムの体験②「説明型・やりとり型」

モミの香り／ササ笛／シカの食痕&角／ササのミシン目／牧草地&ジャージー牛

**11期生** 実習1：翌日の環境教育プログラムにむけての準備の続き

08:00 朝食

09:15 実習：環境教育プログラムの実施（11期生）&体験（12期生）  
擬音祭り／色探し／森のあいいうえお／感想を言い合う

10:40 休憩

10:55 講義：インタープリテーション概論  
プログラムで伝えたいことを出し合う／IPとは？／IPが伝えること／IPの型  
プログラムとは？／プログラムデザイン／IPに必要な3つの力

12:00 昼食

---

## 第2部 「森を身体で考える」

---

- 13:30 「森を身体で考える」①  
「1本の樹」上映/地蔵倒し/道具の説明/森林管理作業（グループで1本の木を切る）
- 18:10 夕食
- 19:30 ヤマネの部屋  
ヤマネミュージアム館長湊秋作の生き様（虫好きこども時代/学校の先生/ヤマネ研究/たんぼ）
- 20:30 終了・ログブック記入

### ●第3日目 6月18日(日)

- 08:00 朝食
- 09:15 森を身体で考える②（森林管理作業）  
ファイヤーブレイスの枠作り/堆肥場兼ネズミの観察装置作成/残っている木の伐採・運搬  
アプローチ道の木の間伐
- 12:10 昼食
- 13:30 全体でのフィリップボード・ディスカッション  
今の気持ちを一言で、ここまでで1番印象に残ったこと
- 14:10 11期生クロージング  
今の自分が大切にしている・これから大切にしたい言葉&12期生へメッセージ&記念撮影  
「できない理由を探すのではなくできる可能性を見つけていきたい」「わたくし」「FEERING」「光」  
「まつ」「遠回り道の宝物」「そのまま」「伝える」「ノージョークノーハッピーで一生懸命生きる」  
「続けること」「心のアンテナ」「FUNN」「忙しい→大変」「伝える」「楽しむ」「積極一貫」
- 15:00 休憩

---

### ★第3部 「未来を見ずえる」

★★★ ここから 12期生のみ★★★

---

- 15:30 講義：安全対策  
ケガの状況/安全対策とは/時間軸に沿った安全対策/危険予知トレーニング  
指導者によって異なる安全対策の視点/まとめ/ファーストエイドについて
- 16:40 休憩
- 16:50 プログラム相互実施のオリエンテーション・準備
- 18:00 夕食
- 19:15 実習&講義：体験学習法の理解  
同心円実習：話す、聞く 「私の好きな場所」「私の好きな時間」  
伝える、引き出す 「私に影響を与えた〇〇」「なぜこの講座に参加したのか？」  
講義：コンテンツとプロセス/体験するとはどういうことか/体験学習法について
- 20:15 終了・ログブック記入

### ●第4日目 6月19日(月)

- 8:00 朝食
- 9:30 プログラムの相互実施  
葉っぱじゃんけん  
同じものがし：トランプのマークで  
森の句会
- 12:00 フィードバックの読み合わせ、次回へ向けての改善  
昼食（お弁当）
- 13:20 補いの講義  
CONEの案内/プログラムの相互実施講評/体験学習の循環過程/ジョハリの窓/Q&A
- 14:00 講座全体のふりかえりとわかちあい
- 14:30 クロージング
- 14:45 終了

# 第1部 「森と人と出会

～1日目～

## 開講式／オリエンテーション

梅雨の晴れ間に清里に集まったNEC森の人づくり講座の受講生23名。昨年の冬講座に参加した13名（11期生）と新規学生10名（12期生）が顔を合わせ、まだ緊張感のただよう中、ハリスホール研修室で開講式が始まった。

NEC（日本電気株式会社）の山辺さんからは「これからはますますインタープリターの活躍する場がふえていくでしょう。がんばってたくさん吸収してください。」とお言葉をいただいた。

## 体験：講座のウォーミングアップ

まずは緊張した心と体をほぐす時間。お題にそって仲間を探す活動で、みんながどこから来ているのかなど基本的なことを知り合った。そしてそれぞれ持ったひらがなカードを組み合わせて言葉を作る活動では「森に関係する言葉」というお題にそって「つゆ」「にんげん」などの言葉を全員で作っていくうちに緊張していた気持ちも少しずつほぐれていった。

## 体験：環境教育プログラムの体験

ここからは森に入っていったの環境教育プログラム体験。レンジャーの全身を使つての「間違い探し」で、よく見る練習をしたあと、グループにわかれて森から「赤いもの」や「本日のスペシャル」を探し出す。梅雨の森からは、キノコや虫たちの巣、ふわふわの葉っぱなどいろいろなものが見つかり、最後には白い枠を森に置いてきて森全体を美術館に見立てる。森にはいろいろな発想で作られたたくさんの美術作品があらわれた。ただ見えているということと、きちんと見るといふことの違いを感じた。

## 講義：環境教育概論（12期生）

12期生だけになって環境教育とは何なのかを考える時間。全員で自分が思う環境教育の活動をあげてみることで環境教育の扱う領域を知った。そして、「子どもに環境問題って何で起こるの？と聞かれたら何と答えるか」という質問に「少しだけ、自分だけならいいという考えが積み重なった結果」「本来あるべきものがあるべき場所がない状態」など様々な考え方ができた。改めて環境教育という言葉の意味を考えさせられる時間だった。

## 実習：プログラム準備①（11期生）

前回12月にも実施したプログラムを再度実施する為の準備の時間。前回実施した際のことを思い出しつつ構成を練り直す。グループ内だけの話し合いにとどまらず、全体で話し合つてひとつの流れを創つていこうとしていた。想いを「伝える」ためにはどうするのか。再会した仲間たちが共に頭を悩ませる時間であった。





## 目的の共有化

この講座における自分自身のねらいと、自分を表す3つのキーワードを提示することによって一人一分で自己紹介を行った。出会いをねらいにしている人、自分の成長をねらいにしている人、23人23色のねらいがあった。キーワードでは「笑う」や「写真」「野鳥」など、自分の大切にしていることから趣味や好きなことまでさまざまな言葉が出てきた。顔なじみの11期生の新たな面も、初めて会う12期生のことも共有し合えた。

## ～2日目～

### 体験：早朝ガイドウォーク（12期生）

12期生だけの早朝ガイドウォーク。昨日までは少し緊張気味だったみんなもだんだんと会話が弾むようになってきた。うす曇りの空の下、モミの香りを嗅いだり、ササ笛を吹いたりしながら朝の気持ちのいい空気に包まれた。



### 実習：プログラム準備②（11期生）

11期生は本日のプログラム実施準備の大詰めの日。一晩自分なりに練ってきたことを出し合い、話し合った。そして、必要なものを揃えたり、何度もリハーサルを行ったり。半年間貯めていた思いを出し、共有しあった。より良いものを創るために、伝えるために・・・

## 環境教育プログラムの実施&体験

11期生によるプログラム実施。12期生はそれらのプログラムを体験する。擬音語を探すプログラム、色を探すプログラム、そしてそれぞれの感じたことを文章にするプログラム。11期生の伝えたい思いが形になった瞬間であった。実施した側も体験した側も多くのことを感じられたようだ。みんなそれぞれに感性が違っていること、新鮮な気持ちを忘れかけていたこと、そして感動するという気持ちを味わえたこと。この時間を共有できたことが更なるみんなの成長の糧となるであろう。



## 講義：インタープリテーション概論

「プログラム実施を通して参加者にどんな気持ちになってほしいか」というテーマに沿ってそれぞれ思うことを書き出し、数人で共有し合う。すでにプログラム実施を行ったみんなも、これから体験するみんなもそれぞれに思いを持っていて、その思いこそがインタープリターにとって必要なこと。自然と人、人と人をつなぐこと、「見えるもの」から「見えないもの」を伝えることがインタープリターの役割であることなどを学んだ。



## 第2部 「森を身体で考え」



### 実習：森林管理作業①

「森を身体で考える」第1弾として、実際に生きている木を伐り倒す作業を行った。3つのグループに別れ、どの木を伐るかという選定の話し合いから始まった。周りの木の生長にとって犠牲になっても良さそうな木を選び、なるべく他の植物を傷付けずに済むように倒す方向を選ぶなど一生懸命考えて、そして命をいただくということを感じながら一生懸命伐り倒した。40歳ほどの木の切り口はみずみずしくいい香りがして、木も生きていることを感じた。伐った後には開けた空が見えた。



### 講義：ヤマネの部屋

ヤマネミュージアム館長、湊先生による講義。湊先生とヤマネとの出会いの話から、学校の先生だった頃の話、現在の取り組みとしてアニマルパスウェイ（小動物の移動のために道にかけられた橋）についての話などを聞いた。湊先生の生き様に触れ、自分の生き方と重ね合わせたり比べたり・・・「かっこいい！」との声が聞かれたほど、多くの受講生が感銘を受けた時間であった。



### ～3日目～

### 実習：森林管理作業②

昨日までもっていた天気は崩れ、雨模様。みんなカラフルなカッパに身を包んで、昨日伐ってそのままにしておいた木を選び出し、実際に役に立つものを作る作業を行った。2メートルほどに伐った材を、一輪車を使い、重い部分は2人がかりで運び出した。生きていた木の重さを実感できた。



運び出した材は、焚き火場の囲いに使われ、夜間にネズミを観察できる場にもなった。「またいつかここに来たい」と、自分たちの作ったものに達成感と喜びを感じていた。



### フリップボード・ディスカッション&11期生クロージング

この時間を持って11期生とはお別れ。

「今の気持ちを一言で」と「一番印象に残っていること」を各自書き出し、4、5人で共有した。その後、11期生から「今大切にしたい気持ち」や「12期生に伝えたいこと」を発表しあった。「そのまま」「伝える」「続けること」など、11期生からの熱いメッセージを12期生はしっかりと受け取ったようであった。そして最後に、12月に11期生が残した「つながり冊子」を12期生に授与した。最初はぎこちなかった11期生と12期生も、別れを惜しむかのように話し続けた。森の人のつながりが確かにここにあった。



## 第3部 「未来を見ずえる」



### 講義：安全対策

23人から10人になった研修室は何だか寂しく、しかしこれからの新たなはじまりに期待をもっているかのような雰囲気であった。

自然体験につきものともいえる危険を最小限に抑えるための対策を学ぶ時間。怪我の現状を知り、絵を見て危険箇所を予想する危険予知トレーニングを行った。



### 実習：プログラム相互実施オリエンテーション&準備

体験する立場から実施する立場へと変わる12期生。3つのグループに分かれてプログラムの説明を受け、後はグループごとに準備に取りかかった。伝えたい想いは何なのか、熱い意見を出し合って考えていた。



### 講義&実習：体験学習の理解

2人組で「話す」と「聞く」ことを意識した実習を行った。どういった話し方、聞き方がいいのか、距離感はどうかなど、体験を通して学んだ。その後、体験をやりっぱなしにしないことの大切さや、体験から発見したことには実感が伴うことなど、体験学習法の大切さが伝えられた。



### ～4日目～

#### 受講生に期待すること

キープ協会の川嶋から、受講生の今後に期待したいことが話された。自分たちの世代で何ができるのか考え、いろいろな可能性に挑戦してほしい、そして今後どのような形で環境教育に関わっていきたいか考えてほしいと・・・



#### 実習：プログラム相互実施&相互評価

昨日からの準備を形にする時。みんなの気持ちが昨日の雨をふき飛ばしたかのような夏を思わせる日差しの中、お互いのおもいがつまったプログラム実施が行われた。

どのグループもねらいを伝えるための工夫が見られた。まとめのプログラムでは4日間のみんなの思いがぎゅっとつまった詩が集まった。実施後の相互評価においても、互いにあたたかく且つ厳しい意見が交わされていた。それだけみんなの間の壁がなくなり、仲間として高めあっていることが感じられた。





### 講義：補いの講義

互いに実施したプログラムのフィードバック・シートを読み合わせ、良い点、改善点をふりかえった。やり終わったことで緊張から解放された、笑顔と達成感の中、冷静にふりかえりを行っていた。そして、体験学習には「指摘や分析があった上で次の体験につながる」という循環過程があること、インタープリターは日常においてもできるということを学んだ。4日間の最後の講義、みんなのまなざしは真剣だった。



### 実習：ふりかえりとわかちあい

4日間の最後の時間。講座を振り返るスライドショーを見た後、ふりかえりシートを各自で記入した。印象に残っていること、書き留めておきたいことや言葉などを、この4日間を思い出しながら書き込んでいった。その後2、3人で発表しあった後、全体で輪になって発表した。溢れる気持ちや感動を抑えきれず、泣きながら想いを語っていた。この気持ちを忘れずに、また一回り大きくなったみんなとの再会を約束した。



最後に色紙のプレゼントがあった。「つながりをありがとう」の頭文字から一人ひとりの想いがつづられていた。こうして11期生から12期生へと、そしてまた次の受講生へとみんなの想いが伝わって、つながりの輪が大きくなっていく。そして、またどこかでみんなと会える日がきっとやってくる。

### ログブック

日々感じたことを自分の言葉で書きとめていく。誰でも閲覧可能にしておくことで互いの想いを共有できる。4日間の大切な思い出となった。



つながりをありがとう

キープ・フォレスターズスクール Bコース講座が終了したときの受講生の感想です。

#### ☆受講生の声

- ・環境教育活動と一口で言っても様々なアプローチの仕方があることがわかった。学んだことは「ふり返り」の重要さである。何事も「やりっぱなし」ではいけないということ。
- ・苦手なものや嫌いなもの、普通のものや好きなものまでも、心に少し余裕をもつことで、それに接した時、くすぐったかったり、共感したり、笑えたり、涙が出たりする。そんな人間らしい気持ちを忘れずに、これからは真剣に環境教育に関わっていきたい。
- ・人と自然が愛し合うような関係の構築を促し、自然を通じて人と人を結ぶお手伝いをする事です。その具体的な方法は、「メッセージを聞くこと、共有すること。」です。
- ・学校ビオトープなどを通して子どもに環境教育をし、地域との結びつきを作っていけることがとても楽しそうだと思います。
- ・「自然と人」だけではなく、その自然を使って「人と人」を結ぶような環境教育をしていきたいと本当に強く感じました。
- ・大学院で学んだ知識も活かして企業と人とを繋げたり、自然と企業を繋げたり、森人と都会人を繋げたりするコーディネートする役割を担っていき「森人の繋がり」を更に広めていきたいと考えています。
- ・今回私は新たな価値観を発見しましたが、この講座を受けたメンバーそれぞれに新たな学びがあったのです。環境教育は、そんな自由な個性を生かせる教育なんだと思います。
- ・環境教育というものはぼんやりとしたものでしかなかったかが、講座を体験した今、後期の日程は残っているものの、少しははっきりとしたものになったし、同じ分野に興味のある人たちと交流していくなかで自分の視野も広がった。
- ・この経験を生かし、いつか記者として社会に自然に触れることの大切さを訴えていきたいと思う。
- ・人に、自然に、自然体で向き合う、という事を、学べたと思う。